

2018年度(平成30年度)「自ら考え学ぶ授業づくり」アクションプラン

<学校用>

校番(30)番 福山市立東村小学校

1 育成する力(21世紀型“スキル&倫理観”)

育成する21世紀型“スキル&倫理観”	コミュニケーション能力と思いやり(思考力・判断力・表現力, 主体性・積極性・共感性)	
めざす子ども像(21世紀型“スキル&倫理観”を身に付けた児童の姿)	低: 出来事や体験を順序を考えて話したり, 考えを理由とともに話したりする子 中: 体験を詳しく話したり, 相手の考えを受け入れて話したりする子 高: 他者と協働して考えを伝え合ったり, 意味や価値を創造したりする子	低: 考えを出し合い, お互いの考えを明らかにしようとしている子 中: 意見交換し, 相手の考えと自分の考えを比較検討しようとしている子 高: 論理的に伝え, 相手の考えを受け入れ, 共通理解を深めようとしている子

2 授業の現状

問題解決学習の授業スタイルのもと, 学習リーダーを中心に自ら学ぶ姿が見られるが, 子ども同士が考えや意見をつないで, 思考・表現を深めたり広げたりすることは十分ではない。

転換

3 めざす授業の姿

ICT機器を活用した協働的な学びを通して, 子ども同士が考えや意見をつなげ, 主体的・協働的に問題解決に取り組む授業

4 めざす授業に向けた取組の具体

4月からの取組 ①子どもが進める授業 ・ICT 機器を児童が操作しながら思考過程を説明する機会を設定する。 ②問題提示の工夫 ・学期に一度以上, 単元課題としてオーセンティックな問題を提示する。	8月末の状況 ①殆どの児童は, ノートを撮影し, 拡大して説明するなど, ICT 機器を操作できるようになっている。 ②単元課題に取り組むことで, 学習意欲が向上すると共に, 考えることの楽しさを実感できている。	9月からの取組 ①説明の内容に応じた, ICT 機器の有効的な利用ができるようにする。 ②学期に2度は, 単元課題としてオーセンティックな問題を提示する。	12月末の状況 ①タブレット画面にラインを引いたり, 拡大・縮小したりするなど, 説明力が向上してきた。 ②学期に2度以上現実的な問題を提示することで, 問題解決意欲を高めた。	1月からの取組 ①算数科以外の教科においても ICT 機器を場面に応じて活用する。 ②日常生活の場面に即したオーセンティックな問題を協働的に解決させ, そのプロセスを評価する。	2月末の状況
--	---	--	---	---	---------------

5 取組の結果等

数値は2017年(H29年)調査等の状況

全国学力・学習状況調査(%)

	A問題	B問題
国語	※児童数が極少のため, 公表は控えさせていただきます。	
算数		

()は県平均との差

「基礎・基本」定着状況調査(%)

	タイプⅠ	タイプⅡ
国語	75.9(+4.4)	33.3(-19.1)
算数	85.4(+8.3)	66.7(+1.3)
理科	89.4(+19.0)	63.0(+12.0)

体力づくり改善計画【広島県体力・運動能力調査から】

県平均以上項目数	前回目標値に対する結果	重点課題	改善する取組内容・方法
(男子) 28/48	男女とも上体起こしで県平均を上回る児童を65%以上にする。	「長座体前屈」の記録を向上させる。	体育授業で毎時間サーキットトレーニングをしたり, 準備運動に柔軟体操を取り入れたりする。
(女子) 25/48	12月の測定結果は, 73%の児童が上回った。		
目標値	長座体前屈で, 広島県平均を上回る児童を60%にする。		

「基礎・基本」定着状況調査(児童質問紙調査)(%)

内容	国語		算数		理科	
	よく	やや	よく	やや	よく	やや
授業が分かる	16.7	33.3	66.7	0	66.7	16.7
学校が楽しい	83.3					

福山100NEN教育アンケート[対象:授業者](%)

質問項目	よく	当てはまる
仕事にやりがいを感じている	0	50
仕事に充実感がある	0	25

児童生徒アンケート(%)

質問項目	(12)月実施	
	当てはまる	少し
授業で考えることが面白い	53	30
自分の考えは, 認められている	45	43

暴力行為発生率・不登校児童出現率 (%)

(12)月末現在

暴力行為	2.2	不登校	2.2
------	-----	-----	-----